

ふじさわ環境白書

2024

藤沢市環境基本計画
藤沢市地球温暖化対策実行計画
令和5年度年次報告

～地域から地球に拡がる環境行動都市～



藤 沢 市

は し め に

『ふじさわ環境白書 2024』は、「藤沢市環境基本計画」及び「藤沢市地球温暖化対策実行計画」の進行状況を管理するために、本市における環境の現状を 2023 年度（令和 5 年度）の実績や状況に基づいてまとめたものです。

本市では、1996 年度（平成 8 年度）に制定された「藤沢市環境基本条例」に基づき、1998 年度（平成 10 年度）に、「豊かな自然と都市機能が調和した安心して暮らせるまち—藤沢」の実現を目指し、「藤沢市環境基本計画」を策定しました。2010 年度（平成 22 年度）には、社会情勢を踏まえるとともに、「地域から地球に広がる環境行動都市」の実現を目指し、将来にわたって持続可能な社会を構築するために新たな「藤沢市環境基本計画」に改定し、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進してきました。

国連総会では、2015 年（平成 27 年）に「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が、COP21 では「パリ協定」が採択され、国内では、2018 年（平成 30 年）に「気候変動適応法」制定後、同法に基づき「気候変動適応計画」が策定されました。また、2020 年（令和 2 年）に「2050 年カーボンニュートラル宣言」が表明されるなど、環境をとりまく国内外の情勢が大きく変化してきました。

こうした状況を踏まえ、2021 年（令和 3 年）2 月に「藤沢市気候非常事態宣言」を表明するとともに、「藤沢市環境基本計画」及び「藤沢市地球温暖化対策実行計画」の計画期間が 2022 年度（令和 4 年度）までのところ、満了を待たず 1 年前倒して 2021 年度（令和 3 年度）に改定しました。また、2023 年度（令和 5 年度）には、市域の脱炭素化の一層の推進を図るため、これまで環境施策に係る推進体制として設置していた「藤沢市環境政策推進会議」を「藤沢市環境政策推進本部会議」に改め、私を本部長とする体制へと強化しました。

一方、国内では、2020 年（令和 2 年）に新型コロナウイルス感染症が確認され、緊急事態宣言が発令されました。2023 年（令和 5 年）5 月に 5 類感染症に移行し社会的落ち着きを取り戻しましたが、この間に生じたテレワークの普及など、暮らしや働き方の大きな変化に対応しながら、環境への取組を進めています。

本書では、第 1 部で「環境をめぐる動向」として、国全体の環境保全対策、有害化学物質や廃棄物処理などに関する身近な課題、地球温暖化をめぐる国内外の取組などを取り上げています。第 2 部では、「藤沢市環境基本計画」にある「地域から地球に広がる環境行動都市」を創造するための 5 つの環境像の実現に向けた本市の取組の結果について、第 3 部では、「藤沢市環境基本計画」及び「藤沢市地球温暖化対策実行計画」の推進体制や市民・事業者のそれぞれの取組について記述しています。

2023 年度（令和 5 年度）における「藤沢市環境基本計画」及び「藤沢市地球温暖化対策実行計画」の指標の達成状況については、継続項目を除く指標 13 項目のうち 8 項目で達成、5 項目で一部未達成の状況となっています（その一覧は、資料編の 258-261 ページ）。

今後も「藤沢市環境基本計画」及び「藤沢市地球温暖化対策実行計画」の着実な推進を図り、より良い環境を享受できるよう、計画の進行管理に努めてまいります。

本書が市民や事業者の皆さんの環境への意識をより一層高め、具体的に環境保全に取り組んでいくための参考となれば幸いです。

終わりに、本書の編纂に当たり、資料の作成及びご提供をいただきました関係者各位に対し深く感謝いたしますとともに、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【市の花】



フジ

【市の鳥】



カワセミ

【市の木】



クロマツ

2025 年（令和 7 年） 1 月

藤 沢 市 長 鈴 木 恒 夫

目 次

第1部 環境をめぐる動向

1 大気環境・水環境・土壌環境等の保全	1
2 有害化学物質等対策	7
3 廃棄物の減量・資源化	12
4 生物多様性の保全	20
5 環境影響評価（環境アセスメント）	24
6 地球温暖化対策	27
7 持続可能な開発目標（SDGs）	34

第2部 藤沢市の環境の現況と取組

I 快適な環境が将来にわたって適切に保全されるまち

1 大気の保全	37
2 土壌・地下水の保全	54
3 河川・海の保全	60
4 騒音・振動・悪臭の防止	76
5 放射性物質への対応	83
6 景観の保全・形成	88
7 文化的・歴史的資源の活用	95

II 地域資源を活用し自然とふれあえるまち

1 緑と里山の保全	100
2 生物多様性の保全	110
3 新たな緑の創出	119
4 農水産業との共存	130

III 資源を持続可能な形で循環し利用していくまち

1 廃棄物の発生・排出抑制	135
2 廃棄物の適正な処理	142

IV 次の世代の中心となって活躍する人が育つまち

1 環境教育の推進	155
2 各主体による環境保全・環境美化	166

V 環境にやさしく地球環境の変化に適応したまち（「藤沢市地球温暖化対策実行計画」）

本市における地球温暖化対策	174
1 省エネルギー対策の推進（「藤沢市地球温暖化対策実行計画」基本方針1）	183
2 エネルギーの地産地消（「藤沢市地球温暖化対策実行計画」基本方針2）	194
3 環境にやさしい都市システムの構築（「藤沢市地球温暖化対策実行計画」基本方針3）	200
4 循環型社会の形成（「藤沢市地球温暖化対策実行計画」基本方針4）	206
5 気候変動への適応（「藤沢市地球温暖化対策実行計画」地域気候変動適応計画）	211

第3部 「藤沢市環境基本計画」及び「藤沢市地球温暖化対策実行計画」の推進体制

1 推進体制	223
2 国や他自治体等との連携	228
3 資料編	
• 本市の概要	244
• 広報ふじさわ等にみる年間の環境情報	247
• 計画の進行管理	256

